

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 92人

② 算数 92人

5 留意事項

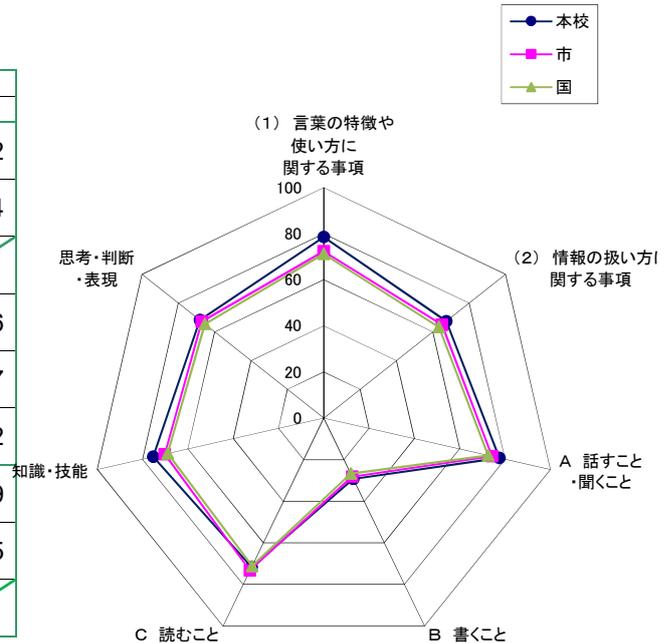
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	78.5	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	67.4	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	77.5	74.2	72.6
	B 書くこと	29.3	28.2	26.7
	C 読むこと	71.7	73.3	71.2
観点	知識・技能	75.3	70.2	68.9
	思考・判断・表現	68.2	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

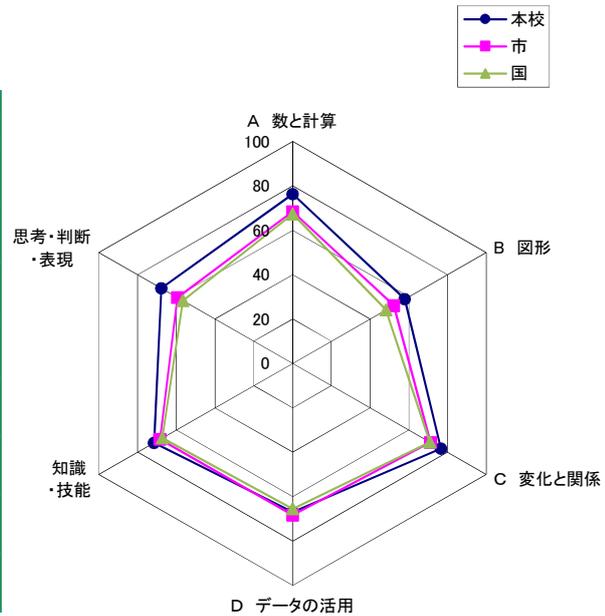
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	領域の平均正答率は78.5%であり、全国平均を7.3ポイント上回っている。 ○言語の特徴や使いに関する事項においては、全ての問題において正答率が全国平均よりも上回った。特に漢字を文の中で正しく使うことを問う問題においては、平均正答率が84.8%と、全国平均より12.2ポイント上回っている。	・漢字については、文章の読み取りと絡めながら指導し、さらなる定着を図る。また、敬語の使い方においても、日常的な会話の中で指導できるようにする。
(2) 情報の扱い方に関する事項	領域の平均正答率は67.4%であり、全国平均を4.0ポイント上回っている。 ○原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題においては、平均正答率が69.6%と、全国平均より4.9ポイント上回っている。	・情報と情報の関係付けの仕方や、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解させるために、国語はもちろん他教科との関連を図りながら、継続的に指導する。
A 話すこと・聞くこと	領域の平均正答率は77.5%であり、全国平均を4.9ポイント上回っている。 ○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題においては、平均正答率が80.4%と、全国平均を6.8ポイント上回っている。	・目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめられるよう、話し手の意図を聞き取ったり、自分の考えを話したりする機会を増やし、話すこと・聞くことへの指導のさらなる充実を図る。
B 書くこと	領域の平均正答率は29.3%であり、全国平均を2.6ポイント上回っている。 ○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを問う問題において、全国平均を2.6ポイント上回ったものの、平均正答率は29.3%と低かった。	・全国平均を上回っているため、今後も、他者と自分の意見を比べながら文章に書いたり、字数制限の中で簡潔にまとめたりするなど、条件に合わせて文章を書く活動を設定し、その機会を増やしていくことで、さらなる定着を図る。
C 読むこと	領域の平均正答率は71.7%であり、全国平均をやや上回ったが、市平均を1.6ポイント下回っている。 ○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題においては、平均正答率が93.5%と、全国平均を3.5ポイント上回っている。 ●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる問題においては、平均正答率が52.2%と、全国平均を4.0ポイント下回っている。	・読み取ったことを基に自分の考えをまとめるということに課題がみられたので、読んで考えたことを伝え合ったり、文章の大切な言葉を捉え簡潔にまとめる指導を充実させたりする。

宇都宮市立岡本西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	76.3	68.4	67.3
	B 図形	57.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	76.6	71.2	70.9
	D データの活用	67.0	68.3	65.5
観点	知識・技能	71.5	68.4	67.2
	思考・判断・表現	67.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>領域の平均正答率は76.3%と全国平均を9.0ポイント上回っている。</p> <p>○()を用いた式や、加法と乗法の混合した式の場面と関連付けて読み取ることができるかどうかを問う問題では、平均正答率が82.6%と、全国平均を12.3ポイント上回っている。</p> <p>●(2位数)÷(1位数)の筆算について商の意味を考えことができるかどうかを問う問題では、全国平均を12.2ポイント上回っているものの、平均正答率は59.8%と低かった。</p>	<p>・割り算の筆算の仕組みを理解するだけでなく、数の大きさや数の構成についての感覚を育てる活動や、筋道を立てて考え説明する活動を学習の中に設けることで、商の意味を考える力を高められるようにする。</p>
B 図形	<p>領域の平均正答率は57.9%と全国平均を9.7ポイント上回っている。</p> <p>○正方形の意味や性質を理解しているかどうかを問う問題では、平均正答率が89.1%と、全国平均を1.9ポイント上回っている。</p> <p>●高さの等しい三角形における、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを問う問題では、全国平均を15.8ポイント上回ったものの、平均正答率は35.9%と低かった。</p>	<p>・三角形の面積の求め方は定着しているものの、図形の性質を筋道を立てて考えることに課題が見られるため、単元の終末などで、同様の適応問題に取り組む場面をつくることで、場面の理解力や活用力を高められるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>領域の平均正答率は76.6%と全国平均を5.7ポイント上回っている。</p> <p>○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかを問う問題では、平均正答率が93.5%と、全国平均を5.0ポイント上回っている。</p> <p>●示された比較量と基準量から、割合が30%になるものを選ぶ問題では、全国平均を5.1ポイント上回ったものの、平均正答率は51.1%と低かった。</p>	<p>・百分率で示された割合についての理解に課題が見られたため、円グラフや帯グラフを用いて、割合を視覚化して捉えたり比較したりする学習場面を意図的に設定したり、他教科や日常生活の中でも百分率に用いているものに触れたりする機会を増やし、体験的に理解できるようにする。</p>
D データの活用	<p>領域の平均正答率は67.0%と全国平均を1.5ポイント上回ったが、市の平均を1.3ポイント下回った。</p> <p>○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかを問う問題では、平均正答率が79.3%と、全国平均を3.6ポイント上回っている。</p> <p>●二次元の表から条件に合う数を読み取ることができるかどうかを問う問題では、平均正答率は58.7%と、全国平均を5.9ポイント下回っている。</p>	<p>・二次元の表から目的に応じてデータを集める問題において課題が見られたため、表の中の数値が示すものについて考える活動を意図的に設定することで、データを正確に理解する力を育てる。</p>

宇都宮市立岡本西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 「朝食を毎日食べていますか」の質問に対する肯定的回答率は95.7%で全国平均を1.8ポイント上回っている。このことは、食に対する日常の指導や、家庭の協力による生活習慣の育成への意識の高さと児童への支援の成果であると考えられる。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に対する肯定的回答率は99.0%で全国平均を3.1ポイント上回っている。当番活動、係活動、委員会活動等で、児童が学級や学校のためになるよう意識して活動していることが伺える。今後も児童の活動の様子をよく見て、よい行いを賞賛し、広がるように支援していく。
- 「学校に行くことは楽しいと思いますか」の質問に対する肯定的回答率は92.5%で全国平均を7.2ポイント上回っている。人との関わりを楽しみながら、学校生活を送っている様子が伺える。今後も児童一人一人に目を向け、家庭との連携を取りながら前向きに学校生活を送ることができるように支援していく。
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問に対する肯定的回答率は90.3%で全国平均を13.1ポイントと大きく上回っている。それぞれの学級で、学級活動の話合いが活発に行われていることが伺える。今後も、児童主体の自治的な活動が推進されるよう支援していきたい。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」の質問に対しての肯定的回答率は96.8%で全国平均を2.6ポイント、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対しては94.7%で1.9ポイント上回っている。その反面、「国語の勉強は好きですか」の質問に対しての肯定的回答率は54.8%で全国平均より6.7%下回っている。学ぶことの楽しさを感じることができるような授業展開を工夫し、国語の学習への苦手意識がなくなるようにしていく。
- 「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に対しての肯定的回答率は47.4%で全国平均を16.3ポイントと大きく下回っている。発表のときに、聞く人に分かりやすく伝わるように話す練習を普段の学習に取り入れていくようにする。

宇都宮市立岡本西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあてと振り返りの充実	全ての学年で、岡本西小授業スタンダードを活用し、授業の終末でまとめを板書している。「今日の授業を振り返ろう」を参考に振り返りをノートに書く活動を実施している。（岡西小学習のスタンダード）	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の肯定的回答率が76.4%で、県平均を5.0ポイント下回り、全国平均を2.4ポイント上回っている。 「5年生までに受けた授業では、各教科などえ学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定的回答率が76.4%で、県平均を2.2ポイント下回り、全国平均を2.0ポイント上回っている。

豊かに表現する児童の育成	児童同士の関わり合いを大切にした対話のある活動の設定の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の肯定的回答率は47.4%で、県平均を15.3ポイント、全国平均を16.3ポイントと大きく下回っている。 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的回答率が77.4%で、県平均を6.7ポイント、全国平均を4.4ポイント下回っている。
家庭学習の定着	地域学校園で共通の家庭学習の時間の目安と家庭学習の手引きを作成し、自主学習ノートと記録カードを用いて家庭学習の取組を進めている。定着月間・強調月間には家庭と連携し生活習慣の振り返りを行っている。	「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答率が69.9%で、県平均を6.2ポイント、全国平均を0.8ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
各教科の誤答及び無回答率、質問紙の結果から、「自分の考えを言葉で表現すること」に課題を抱えている児童が全体の25%程度いること、「学習や課題解決に意欲的に取り組むこと」に課題を抱えている児童が全体の30%程度いることがそれぞれ明らかになった。	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力及び表現力の育成に努める。 ・児童の学習意欲の向上に努める。 	<p>「自分の考えを言葉で表現すること」の課題解決に向け、国語では主張の理由や根拠をあげながら話したり書いたりする活動、算数では筋道を立てて説明する活動を継続して行う。</p> <p>「学習や課題解決に意欲的に取り組むこと」の課題解決に向け、児童の実態や指導内容等に応じて「個に応じた指導」を柔軟かつ多様に導入することなどの工夫を行うことにより、「わかる授業」を行い、子どもたちの学習意欲を高める工夫する。</p>